

生きる力を培う教育課程の創造

～表現力を高める評価活動を通して～

久留米市教育研究所

久留米市立諏訪中学校 教諭 岩橋芳則

久留米市立青陵中学校 教諭 谷口哲也

研究の概要

平成14年度より学校5日制が実施され、以前に増して『学力』に対する関心や不安が社会的現象として耳目を集めている。これは授業時数の削減に伴う授業内容の見直しや精選また、総合的な学習の中身が不透明な点も関係している。そこで、私たちは学力を『生きる力』と捉え、その『生きる力』の育成を図るべく教育課程の要諦をなす教科学習に、より具体的・系統的に反映させる方策を焦点化する研究に取り組んだ。

特に、自己の考え・意見・アイデア等を正確に他に伝えるには表現力が不可欠である。そこで、表現力を定義づけ、授業における生徒の表現活動を高めることを研究の一端とした。また、個の思考をより高度な表現活動に結びつける評価活動の在り方をもう一つの研究課題とした。

従って、研究の実際においては表現力を重視した研究と評価活動に重点を置いた研究との2部構成にした。

〈キーワード〉

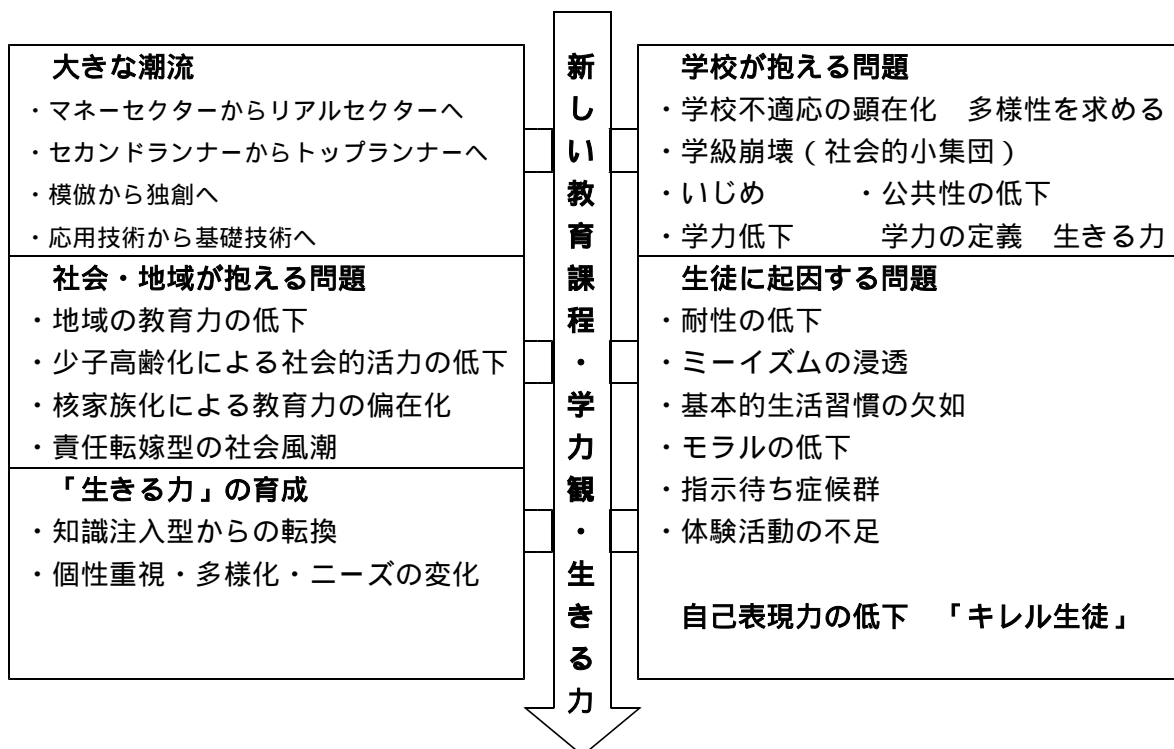
生きる力、表現力、三段階の表現活動、評価、評価活動、自己表現、伝達、小集団活動

1 主題設定の理由

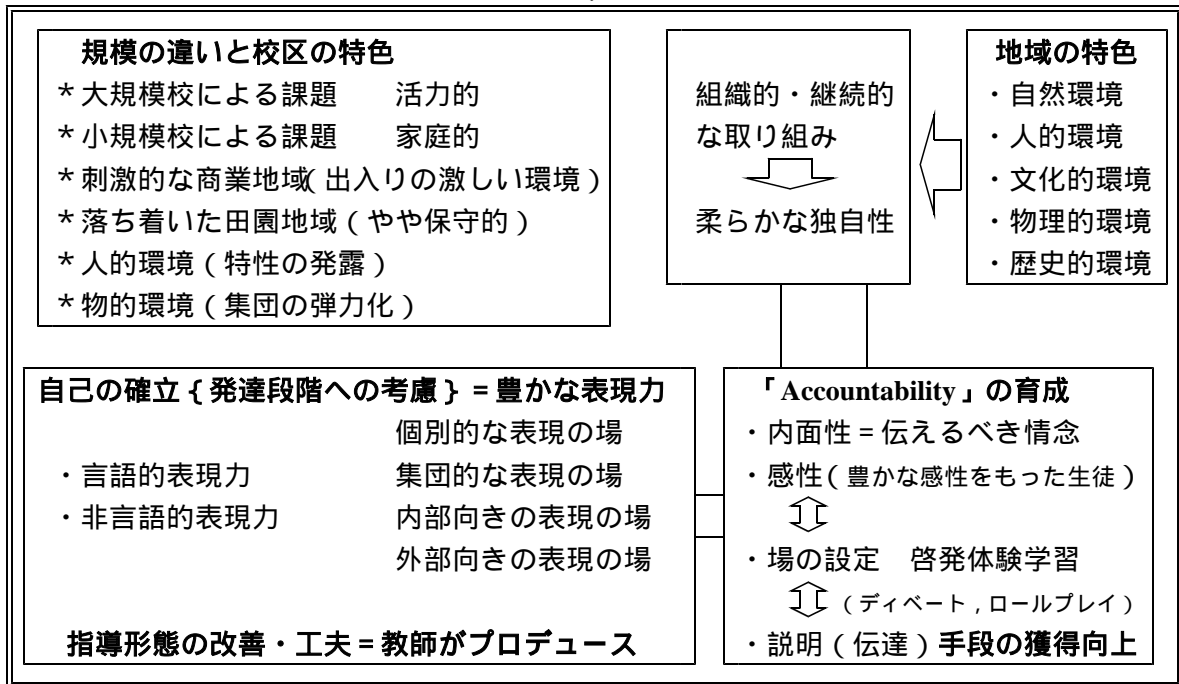
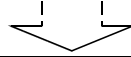
授業改革を行うには、学習者としての生徒一人ひとりの個性及び学校を取り巻く地域や社会状況、社会情勢の変化を把握することが必要である。生徒像はそれらの環境状態と個性の伸長の相互作用の結果として、現れるも

のである。併せて、日本人には自己表現力が乏しいとも言われている。よって、課題解決の一助として本研究主題を設定した。

社会の要請や地域社会及び生徒の実態を包括してまとめれば、次のようになる。



< 中学校を取り巻く状況 >



2 主題及び副主題の意味

(1) 生きる力とは

自己の思いや目標の実現に向けて、他と積極的に関わったり、問題解決を図ろうとしたりするのに必要不可欠な能力と考える

(2) 表現力とは

生徒が今までに身に付けた様々な知識、技能、考え方、その他の既習体験を基に、学習情報を収集・整理・分析・調整・構成統合し、自己及び集団の考え・意見・アイデア等を他に伝えるための諸能力の集合体である。

(3) 評価活動とは

生徒の意欲・関心・思考・判断・表現等を様々な方法や基準で評価し、生徒の自己実現を支援する取り組みである。

(4) 研究の歩みから

これまでの副主題は、平成 12 年度が「自己認識を育む総合的な学習を通した中高

連携を目指して」平成 13 年度が「小中の実態を踏まえた、自己認識を育む総合的な学習を求めて」で、共に総合的な学習の在り方を探求し一定の方向性を示唆した。

平成 14 年度は、今までの研究趣旨を踏まえ教科学習における表現活動と評価活動の工夫を通し「生きる力」に溢れた生徒の育成を図ることにした。

3 研究の目的

教科指導の過程で豊かな表現力を身に付け、生きる力に溢れた生徒を育成するための表現活動・形態や評価活動の在り方を究明する。

4 研究の仮説

それぞれの教科に於いて、教科の特性に応じた表現力を高める指導と評価の工夫を行えば、豊かな表現力を身に付け、生きる力に溢れた生徒が育つであろう

